

困難の克服は子どもたちに何をもたらすのか

発達の偏りがもたらす生きづらさに対して、“発達障がい”という言い方がされますが、子どもたち自身にとっては、この呼ばれ方はうれしくないものです。そのいやな感じの本質は、生きづらさの要因が障がいとして子どもの中にあり、その克服が求められて（もっと言えば自分にだけ押しつけられて）いると感じられてしまうためなのかもしれません。子どもたちが自分の特徴を引き受けながら、今を生き生きと暮らすために必要なことは何なのか、二人で語り合ってみたいと思います。



星山 麻木

明星大学教育学部教授
保健学博士・音楽療法士
人と人をつなぎ、一貫した支援ができる人材育成を目指して、こども家族早期発達支援学会を設立。個の違いを生かすエコロジカルデザインや、参加者同士がともに育ちあう協働学習を提起している。
著書
『ちがうことは強いこと その子らしさを大切に
する子育て』 河出書房新社 ほか



田中 哲

こどもと家族のメンタルクリニック
やまねこ院長/医師。
人間の発達にとって【心の骨組み】が大事、その原点を培うものは【あたたかなまなざし】だと主張する、児童思春期精神医学を専門とするドクター。
著書
『“育つ”こと “育てる”こと 子どもの心に寄りそって』(いのちのことば社)



2023年2月25日(土)
18:30 - 20:30



パルテノン多摩 小ホール
東京都多摩市落合2丁目35番地



一般会員：4,400円
非会員：5,500円

